研修便り

高知市教育研究所教職員研修班
平成30年６月26日発行　No.116

「研修便り」は，高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有，研究所から発信する情報の周知を目的として，発行していきます。

平成30年度　研究主任研修会

平成30年５月15日（火）実施

対象：高知市立小・中・義務教育・特別支援学校の研究主任

目的　学校教育目標の具現化を目指した校内研究の意義や校内研修体制の確立・校内研修の在り方について協議し，研究主任としての力量を高める。

「教育目標の実現を目指すカリキュラムづくりーカリキュラム・マネジメントにもとづいてー」

講師：奈良教育大学　赤沢　早人　教授

新学習指導要領の完全実施をひかえて
～カリキュラム・マネジメントの実現をどうする？～

目の前の子どもの姿から「付けたい力」を具体化・焦点化しながらカリキュラムの編成をしていくことが大切である！

カリキュラム・マネジメントの実践を行ううえで取り組むべき三つの側面

側面１　児童生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと（**課題，目標，実施：PD**）
側面２　教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと（**評価・改善：CA**）
側面３　教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと（**組織開発**）

カリキュラム・マネジメントの実施においては，校内でどう分担するか，得意分野を生かしていくかなどのマネジメントが必要。校内での割り振りをしたもの（管理職・ベテラン，主任・主事・ミドルリーダー，教科・学級等担任などの**校内ポジション**）と，役割に応じて何をしていくかという**期待される「振る舞い」**について示してみると下の表のようになる。

研究主任はミドルリーダーにあたる

	説明	管理職・ベテラン	主任・主事，ミドルリーダー	教科・学級等担任
運営のマネジメント	**付けたい力を実現するために子どもに働きかける** PDCA，授業改善，アクティブ・ラーニング，ICT活用，教科等横断	価値付ける	選択する 決定する	準備する 指導する
成長のマネジメント	**子どもに付けたい力を具体化する** 資質・能力，子ども理解，ルーブリック	俯瞰する 外部に説明する	つなぐ	子どもを変える
協働のマネジメント	**関係者が力を合わせる** 校内研修・研究，チーム学校，社会に開かれた教育課程	組織をつくる	文化をつくる	同志をつくる

主任・主事，ミドルリーダーの役割

(1)　**選択し，決定する（運営のマネジメント）**
→　実現を目指す学校教育目標に沿ったカリキュラムの選択と実施
(2)　**つなぐ（成長のマネジメント）**
→　所属校における各種目標の整理，構造化，重点化，**共通理解**（職員会議や校内研修など，全体を見渡して提言したり呼びかけをするなど）
(3)　**文化をつくる（協働のマネジメント）**
→　文化的リーダーシップと「プールの渦」モデル（プールの渦のように教職員みんなを同じ方向に巻き込んでいく！）

教職員みんなで進めるカリキュラム・マネジメント！　目指す子どもの「姿」（教育目標）の実現に向けて・・・
一人で！ ➡ 同僚と共に！ ➡ 学校ぐるみで！

【受講者の感想】
- 学校組織として必要なカリキュラムについての共通理解を図り，カリキュラム・マネジメントに基づいた子どもたちに付けたい力を具体化・焦点化し，組織としての経営ができるように働きかけ，目標の実現にせまりたい。
- 研究を進めるに当たって，教職員で目指す子ども像や付けたい力のゴールイメージを共有することで，ベクトルを合わせることができると思うので，共有する場を設定していきたいと思う。

平成30年度　高知市小中義務教育学校3年経験者研修

平成30年５月18日（金）

【講義・演習】

新学習指導要領が目指すこれからの授業づくりに期待されること

講師：高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官　齊藤一弥　氏

目的　教員としての自覚と経験に応じた授業及び学級経営等の指導力と実践力の向上を図るとともに，教員としての資質・能力の向上を図る。

【CONTENTS】

- ○ 新学習指導要領のキーワードを読む
  - ➢ 3年経験者の新学習指導要領に関する関心事の共有
- ○ 新学習指導要領に基づく授業の実際を考える
  - ➢ 模擬実演授業から得た知見の整理
- ○ これからの授業づくりの方向を見極める
  - ➢ 近未来の自分の授業イメージの確認

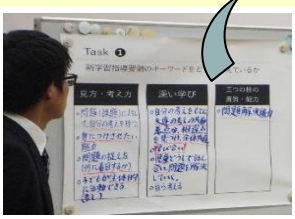
児童生徒がいかなる反応をしても対応できる力を付けること，すなわち深い教材理解が重要である。

新学習指導要領のキーワードをどうとらえているか

見方・考え方　深い学び　三つの柱の資質・能力

資質・能力ベイスの目標への転換

生きる力を育むことを目指すに当たっては，学校教育全体及び各教科・科目等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら，教育活動の充実を図られなければならない。



キーワードについてグループで協議したことを全体で発表

グループ及び全体での共有から見えてきたこと　― 課題整理 ―

新学習指導要領のキーワードを読む

➢ 見方・考え方
- 着目すべきこと
- 問題のとらえ方（焦点化）
- 子どもが主体的になる
- 教科の特質に応じたもの
- 経験群
- 学びの切り口

ex.演繹的，多角的

➢ 深い学び
- 自他の考えの比較
- 学び合いの充実
- 自分の考えを深める
- 探究的
- 学びの質の変容
- 学習プロセスの充実
- アプローチの多様性
- 問題設定の重視

➢ 三つの柱の資質・能力
- 問題解決能力
- 活用する力
- コミュニケーション力
- 実生活に生かすこと
- 学びに向かう力が土台になる

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うには，まず指導内容の分析から始める必要がある。小・中学校学習指導要領を基にどのような授業が期待されているかをおさえ、子どもの見方・考え方が鍛えられていく授業展開・方法のイメージをもつこと！

深い学びを支える数学的活動の在り方

模擬実演授業から得たこれからの授業づくりへの知見

模擬実演授業：新学習指導要領（算数・数学科）での位置付けを図る

子どもに数学的に考える力を育成する授業づくり

目的に応じて合理的に判断する力の育成（小6）

思考対象「問い」
○ データ分析の目的の確認からスタート
自覚化

思考プロセス
○ グラフの形状や代表値から判断結果を説明
○ 目的に応じた分析とは何かを考える
可視化

思考結果
○ データ分析と解釈の繰り返し
知恵の獲得

見方・考え方の授業への位置付け

深い学びをいかに描くか

参加者の声

- 今日の講義を受けて，これからの授業を考えたとき，今，目の前にいる子どもたちが大人になった世界で何が必要となっているのかをとらえ直し，これからの授業を創っていかなければならないと思った。深い学びを実現させる見方・考え方を意識し，授業を創っていきたい。そのためにも課題を焦点化し，子どもたちが何を学ぶのか，何ができるようになるのかを大切にして取り組んでいきたい。
- 齊藤一弥先生の模擬授業は，子どもたちの思考の変化が分かるように板書を工夫しており教具も充実していた。そこから私は，教材研究をする段階で，子どもたちの思考の流れを予測・把握し，ゴールから見た教材研究を行っていくことの大切さを学んだ。